

【東京都多摩地区父母会】 広澤克実氏講演会のご報告(1/30)

主催 明治大学東京都父母会連絡協議会

去る、1月30日(土)に明治大学アカデミーホールにおいて明治大学OB元プロ野球選手、現在は野球解説や大学の講師など幅広くご活躍中の広澤克実さんをお招きして講演会を開催いたしました。

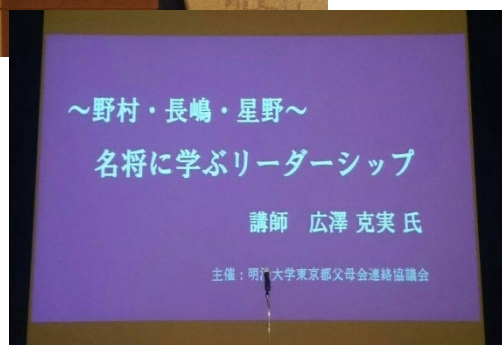
前日は積雪の予報、悪天候による交通機関の乱れなどが懸念されましたが、当日は心配された降雪もなく、寒い1日ではありましたが総勢600名近くの皆様にご参加いただきました。



講演のテーマは「～野村・長嶋・星野～名将に学ぶリーダーシップ」。

ヤクルト、巨人、阪神の3球団で4番バッターを務めた広澤さんでなければ語れない内容に期待が高まります。

まずは、3人の名将を、戦国武将のたとえに使われる「ホトトギス」の俳句で表すところで皆さんの心をはっきりつかみ、野球ファンならずともその語り口に引き込まれていきます。



野村氏を「鳴かぬなら 頭を使え ホトトギス」
長嶋氏を「鳴かぬなら 鳴くのと替えてよ ホトトギス」
星野氏を「鳴かぬなら 気持ちで鳴かせる ホトトギス」

とたとえ、野村さんからは「野球」のベースを学び、長嶋さんからは「野球」を教わった記憶がないが「プロ」とは何か？を学び、星野さんからは「指導法」を学んだと、エピソードを交えながら話が進んでいきました。

3人の共通点は「頭がいい」ということ、「知識と知恵を備えてこそ真の指導者と言える」と球界でただ一人この3人の名将から学んだ広澤さんの重みのある言葉でした。

また、広澤さんの今を語るに忘れてはいけない存在であるもう一人の名将、明治大学の故島岡監督からは、大変厳しい指導を受けたそうです。明治大学入学後1年間は下積み、選手の暖をとるたき火の火おこしから、焼き芋を焼く係というおよそ野球とはかけ離れた毎日を過ごしていたときの様子が目に浮かぶような軽妙な語り口で当時の苦労を話してくださいました。もう野球をやめて逃げ出そうと思ったとき「黒子に徹しろ」という先輩からの一言を胸に決して諦めないという強い心を持ち続け、ここ一番というときに実力を発揮できたそうです。ここぞというときに実力を発揮できる集中力は日頃の鍛錬の賜物ではないかと思われました。

島岡監督と出会ったことで努力する動機づけができ、その努力をするという才能を伸ばしてもらった。そう話す広澤さんからは故島岡監督に対する感謝の気持ちが感じられました。

このようによき指導者に出会えたことが今の広澤さんにとって大きな宝になり「指導者としての人にはないノウハウを持っている」という自信あふれる言葉がとても印象的でした。

講演が終わり質疑応答の際には、ずばり球団を指名しての監督や打撃コーチになりたいと本音が出る場面があり、野球現場に対する情熱を感じました。

来季はぜひ、名将に学んだ「真のリーダーシップ」を発揮し、凄腕の監督としてグラウンドに立つ広澤さんの雄姿が見られることを期待しています。

熱気に満ちた会場を後にした皆様の心には広澤さんのどの言葉が心に残っているでしょうか？

寒い中、講演会にご参加いただきありがとうございました。



多摩地区父母会では来年度も文化・スポーツ行事を企画してまいりますので、奮ってご参加ください。

【報告：菅原】